

第27回 宇宙開発戦略本部 議事概要

日時：令和4年12月23日（金）10：20～10：35

場所：官邸4階 大会議室

出席者：別紙のとおり

議事：宇宙基本計画工程表改訂について

議事概要：

○ 高市宇宙政策担当大臣から資料1「宇宙基本計画工程表改訂等のポイント（案）」及び資料2「宇宙基本計画工程表改訂（案）」の説明が行われた。

○ 審議の結果、案のとおり「宇宙基本計画工程表」を改訂することが決定された。

○ 出席者からの発言は以下のとおり。

- ・ 永岡文部科学大臣から、「文部科学省は、宇宙活動の基盤を支える研究開発を推進する。本日JAXAが、来年2月12日に、H3ロケット試験機1号機を打ち上げる計画を発表した。H3ロケットはこれまで、最大の開発項目となっている第1段エンジンの技術的課題への対応や、イプシロンロケット6号機の打ち上げ失敗に伴う水平展開など、様々な試練を乗り越えてきた。打ち上げ成功に向けて、引き続き関係者一丸となって、準備作業を進めていく。また、文部科学省は、アルテミス計画における有人と圧ローバの研究開発等を推進し、2020年代後半に、米国人以外で初となる日本人宇宙飛行士の月面着陸の実現を図っていく。」といった発言があった。
- ・ 林外務大臣から、「外務省は、宇宙空間の持続的かつ安定的な利用の確保に向け、宇宙空間における国際的なルール作りに取り組んでいる。本年9月には、破壊的な直接上昇型ミサイルによる衛星破壊実験を実施しない旨を表明し、これも含め国際規範の形成を一層推進すべく米国や同志国と協働している。また、アルテミス計画を始めとした日米宇宙協力を円滑に実施するため、『日・米宇宙協力に関する枠組協定』の交渉を進めてきた。交渉は既に完了しており、来年の締結に向け調整を続けていく。更に、日米豪印の間では、インド太平洋地域の国々に対する宇宙分野での支援について、議論を進めている。今後とも、同盟国・同志国等と戦略的に連携した取組みを進めていく。」といった発言があった。
- ・ 齊藤国土交通大臣から、「国土交通省では、準天頂衛星や気象衛星などの宇宙システムを効果的に活用し、国土交通行政を展開している。宇宙基本計画に掲げている『ひまわり』の後継機については、2029年度の運用開始を目

指し、今回の補正予算を活用して、今年度中に整備に着手する。国土交通省としては、引き続き、甚大な災害を引き起こす線状降水帯の予測精度の向上に向けた取組み等を実施し、防災・減災、国土強靱化を推進するなど、宇宙システムの効果的な活用を図っていく。」といった発言があった。

- ・ 浜田防衛大臣から、「今月、新たな国家安全保障戦略等が策定された。その中でも、宇宙領域における能力を強化していくことが明記された。これらも踏まえ、防衛省・自衛隊では、極超音速滑空兵器の探知・追尾の宇宙実証や、宇宙作戦群による宇宙状況把握システムの運用開始、宇宙領域把握衛星の打上げなどを行っていく。引き続き、JAXA や関係府省庁、米国等と連携し、宇宙領域における能力の強化に努めていく。」といった発言があった。
- ・ 西村経済産業大臣から、「小型衛星コンステレーションは、安全保障分野や民生用途での活用が期待され、宇宙分野でゲームチェンジをもたらす技術である。経済産業省では、小型衛星の量産化に向けた支援を進めるとともに、衛星間光通信ネットワーク技術を獲得できるよう、『経済安全保障重要技術育成プログラム』により、大規模な実証に取り組んでいく。また、衛星データを利用した新たなビジネスの創出を促進するため、衛星データプラットフォーム『Tellus』を活用し、地域の課題解決につながるサービスの開発などを支援していく。こうした取組を通じ、スタートアップの育成などを進め、引き続き宇宙産業の発展を図っていく。」といった発言があった。
- ・ 松本総務大臣から、「総務省では、情報通信研究機構（NICT）と連携し、陸・海・空、さらに宇宙をシームレスにつなぐ Beyond 5G の実現に向け、衛星に搭載する、電波や光通信技術の研究開発を進めている。今般の臨時国会において、新たに研究開発推進のための基金の設置をお認め頂いたことから、この基金も活用し、こうした Beyond 5G 宇宙ネットワーク関連技術の研究開発を一層強化、推進していく。これに加え、宇宙天気予報の高度化、衛星量子暗号通信技術の研究開発などの取組について、工程表に基づき、引き続き積極的に進めていく。」といった発言があった。
- ・ 西村環境大臣から、「環境省では、2009 年以来、衛星による温室効果ガス濃度の測定を継続しており、3号機にあたるGOSA T-GWの開発、製造を文部科学省とともに進めている。2024 年度の打ち上げに向けて、万全の準備を進めたい。衛星による温室効果ガス排出量の推定技術の精度向上、国際標準化を目指すとともに、各国の排出データの透明性を確保し、世界全体の排出削減に貢献していく。」といった発言があった。

- 岸田内閣総理大臣より、以下のとおり発言があった。
- ・ 本日、「宇宙基本計画工程表」を改訂した。
 - ・ まず、来年2月12日に打ち上げが予定されているH3ロケットの最大限の活用である。災害対応などに活用できる高解像度の観測衛星などの実装を進めていく。さらに、打ち上げコスト半減、搭載能力3割増などのH3ロケットの特徴を最大限いかし、海外からの打上げ需要にも応えていく。
 - ・ 宇宙の安全で持続的な利用を進める上で、大きな課題となっている宇宙デブリへの対応を加速する。宇宙デブリを除去する実証衛星を打ち上げ、世界に先駆けて優良事例を作り、世界をリードしていく。
 - ・ 宇宙デブリの除去、世界初の民間のみによる月面着陸、夜間や曇りでも、地上の状況を把握できる小型衛星のコンステレーションの構築など、我が国のスタートアップ企業は、様々な課題に果敢に挑戦している。公共調達による活用など、スタートアップが、我が国の宇宙活動の担い手へと成長するための支援を進めていく。
 - ・ 新たな国家安全保障戦略の策定を受け、来年夏を目途に、宇宙の安全保障構想を策定する。さらに、民生分野を含め、最新の宇宙開発動向を踏まえ、3年ぶりに、宇宙基本計画を改定する。
 - ・ 高市宇宙政策担当大臣を中心に、浜田防衛大臣を始め関係大臣が連携し、具体的に進めていただきたい。

(議了)

出席者一覽

岸田 文雄	內閣總理大臣
松野 博一	內閣官房長官
	沖繩基地負擔輕減担当
	拉致問題担当
	ワクチン接種推進担当
高市 早苗	經濟安全保障担当
	內閣府特命担当大臣（知的財産戰略 科学技術政策 宇宙政策 經濟安全保障）
松本 剛明	總務大臣
林 芳正	外務大臣
永岡 桂子	文部科学大臣
	教育未來創造担当
西村 康稔	經濟產業大臣
	原子力經濟被害担当
	G X 実行推進担当
	產業競爭力担当
	ロシア經濟分野協力担当
	內閣府特命担当大臣（原子力損害賠償・廢炉等支援 機構）
齊藤 鉄夫	国土交通大臣
	水循環政策担当
	國際園芸博覽会担当
西村 明宏	環境大臣
	內閣府特命担当大臣（原子力防災）
浜田 靖一	防衛大臣
谷 公一	国家公安委員會委員長
	国土強韌化担当
	領土問題担当
	內閣府特命担当大臣（防災 海洋政策）

後藤 茂之	経済再生担当 新しい資本主義担当 スタートアップ担当 新型コロナ対策・健康危機管理担当 全世代型社会保障改革担当 内閣府特命担当大臣（経済財政政策）
岡田 直樹	内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策 地方創生 規制改革 クールジャパン戦略 アイヌ施策） デジタル田園都市国家構想担当 国際博覧会担当 行政改革担当
大串 正樹	デジタル副大臣 兼内閣府副大臣
和田 義明	内閣府副大臣
野中 厚	農林水産副大臣
中野 英幸	内閣府大臣政務官 兼復興大臣政務官
高見 康裕	法務大臣政務官
金子 俊平	財務大臣政務官
本田 顕子	厚生労働大臣政務官 兼内閣府大臣政務官
磯崎 仁彦	内閣官房副長官（参・政務）
村井 英樹	内閣総理大臣補佐官 （国内経済その他特命事項担当）
森 昌文	内閣総理大臣補佐官 （国土強靱化及び復興等の社会資本整備並びに科学 技術イノベーション政策その他特命事項担当）
秋葉 剛男	国家安全保障局長
藤井 健志	内閣官房副長官補（内政）
岡野 正敬	内閣官房副長官補（外政）
高橋 憲一	内閣官房副長官補（事態対処・危機管理）
田和 宏	内閣府事務次官
四方 敬之	内閣広報官
河西 康之	内閣府宇宙開発戦略推進事務局長